

## 感染症対策下における**子どもの安心・安全を高める**ために

新型コロナウイルス感染症対策として、感染の拡大のスピードを抑制するため、さまざまな取り組みが行われています。その中で、学校の休校、イベントの中止やいろいろな情報が流れるなど、子どもや子どもの身近にいる大人の生活にも大きな影響が出てきています。

子どもたちの中には、自分や家族も病気になるのではないかと不安を抱き、いつもと異なる反応や行動がみられることがあるかもしれません。これらの反応・行動は一般的なことであることを知っておくことが大切です。



- 腹痛や頭痛、不眠、食欲不振などの身体症状を示す
- いつもより泣いたり、大人にしがみついて離れない
- 急に幼い言動をしたり、夜尿、お漏らし、わがままになるなど、いわゆる赤ちゃんがえり
- 遊びの中で起きている出来事を再現する



### 感染予防の観点からの**子どものための安全な環境づくり**

放課後児童クラブ(学童保育)などで、長時間、大人数の子どもが室内で過ごす場合、感染予防の観点から以下の点に気を付けてください<sup>\*1</sup>。



- 定期的な換気
- 密閉した空間で大人数が集まるよりも、屋外や広い屋内で、人が密集せずに十分に体を動かす配慮
- アルコール清拭による消毒(おもちゃ、子どもが良く触れるドアノブなど)
- 体調が少しでも悪い子どもを早めに見つける。また、利用を控えてもらう(健康チェックカードの利用など)
- 体調が少しでも悪い職員は勤務を控える
- 体調が悪い家族のいる子どもや職員の利用は控える
- 食事やおやつの前、遊んだ後などの手洗いとアルコール消毒の徹底
- 調理活動は控える



### 子どもや親、養育者の不安を軽減する：**正しい情報を伝えること**

感染症の流行や自然災害など大きな出来事が起こった際には、その出来事に関するいろいろな情報やうわさが広がり、そのことによって、どの情報が正しいのかの判断が難しくなることがあります<sup>\*2</sup>。子どもはよりその影響を受けやすいといえます。子どもが心身ともに良い状態で過ごすために、ぜひ皆さんに気をつけていただきたいことがあります。

**子どもが出来事に関連したテレビのニュースや映像を繰り返し見ることがないようにしてください。**子どもは認知的にも情緒的にも発達途中段階であるため、映像の中の出来事を現在の状況ととらえたり、より不安や恐怖を増強することがあります。

また、年齢が高くなるにつれ、スマートフォンやインターネットを通して、子どもが自分で情報を得られるため、うわさやデマの被害に遭うリスクが高くなります。子どもに対しては、個々の発達や理解に合わせた情報の提供や、正しい情報の取り方について話し合うなど、家族や身近にいる大人のサポートが必要です。**情報が、いつ、どこ(誰)から発信されたものかについて、注意を払うようにしてください。**

感染拡大に対する状況や方針は、以下にお示しするURLの情報をご参照ください。

○ 厚生労働省「新型コロナウイルス感染症について」

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708\\_00001.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html)

※掲載情報は随時更新されますので、都度、ご確認くださいませよう願いたします。



## 不安やストレスを抱えた子どもや家族へのコミュニケーション

不安や恐れなど心理的ストレスを抱えている子どもや家族と関わる時には、以下を参考にしてください。

- ニーズや心配事を確認する
- 支援が必要と思われる子どもに注意を向ける
- 安心して落ち着けるよう手助けする
- 自ら話すことを聞く
- 基本的ニーズ(衣・食・住)を満たし、可能な限り日課や習慣を保つ
- 規則正しい生活を保つ
- 室内でも、ストレッチやラジオ体操をするなど少しでも体を動かす工夫を生活の中に取り入れる
- 信頼できる情報を得られるように手助けをする
- 公共サービス、社会的支援につなぐ
- 自分の力で自分を守れるよう支援する  
(手洗い、咳エチケット、適度な運動など)



もし、地域に新型コロナウイルスに感染し、快復した後に学校へ登校する子どもがいる際には、学校と連携し、差別が生じないよう、クラスの子どもたちには事前に病気について分かりやすい言葉で伝えておくことも大切です。

また、子どもの中には、依然として強いストレスを抱えていたり、日常生活に支障をきたしているなど、自分だけでは上手く対処できず、さらなる支援を必要とする子どももいます。その際には、精神保健医療の専門家につなげる必要があります。すぐに専門家につなぐのが難しい場合は、教員、スクールカウンセラー、保健師など、地域の人たちから更なるサポートが受けられるようにつなぐことが重要です。

### 参考資料

○ 手洗い(厚生労働省)

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou01/dl/poster25b.pdf>

○ 咳エチケット(厚生労働省)

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000187997.html>

○ 「新型コロナウイルス感染症に関するQ&A(2020年2月27日現在)について」

[http://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content\\_id=326&fbclid=IwAR1jofXGNA-uJ2goqmrCDOc2wAODYgAbgCad1mJlTUKxo0g0tmMQ9tRc-80](http://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=326&fbclid=IwAR1jofXGNA-uJ2goqmrCDOc2wAODYgAbgCad1mJlTUKxo0g0tmMQ9tRc-80)

※掲載情報は随時更新されますので、都度、ご確認くださいませよう願いたします。



(日本小児科学会)

○ 子どものこころの支援「子どものための心理的応急処置」(セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン)

[https://www.savechildren.or.jp/news/publications/download/PFA\\_191003.pdf](https://www.savechildren.or.jp/news/publications/download/PFA_191003.pdf)

このメッセージは以下の団体により共同で発表されました。

一般社団法人 日本臨床心理士会災害支援プロジェクトチーム

一般社団法人 日本公認心理師協会災害支援委員会

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン